

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	根岸 彩夏	学校名	群馬県立大間々高等学校
教科(科目)・領域	外国語 (英語コミュニケーション I)	対象学年(人数)	1年3組(17名)
実践年月日もしくは期間(時数)	令和7年10月～11月(11時間)		

【実践概要】

1. 単元名(活動名): Lesson4 Miracle Mirror 夢のような絶景にかくされた影					
2. 実践する教科・領域 外国語 (英語コミュニケーション I)	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標(評価規準を意識して設定) ボリビアのウユニ塩湖を例に、自然が生み出す素晴らしさを知るとともに、ボリビアが抱える問題について知り、その解決策について考える。					
5. 単元の評価規準	①知識・技能	[知識]to 不定詞(to+動詞の原形)を用いた文の形・意味を理解している。英語で書かれるメール文の形式を理解している。 [技能]to 不定詞(to+動詞の原形)の理解をもとにボリビアのウユニ塩湖について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。			
	②思考・判断・表現	ボリビアのウユニ塩湖の後ろに潜んだ影について、英語で書かれた資料を読み取り、どのような問題や困りごとがあるのかを読み取り、解決策を提案することができる。			
	③主体的に学習に取り組む態度	本文の内容やウユニ塩湖に関する追加の情報をもとに、これまで学んできたことをまとめ、自身の意見やその理由を英語で書こうとしている。(メール文の作成)			
6. 単元設定の理由・単元の意義 【単元設定の理由あるいは単元の意義】 本単元では、南米ボリビアにあるウユニ塩湖という「絶景」を取り上げ、その自然の大きさや美しさにまず触れることで、生徒の海外に対する関心を引き出す。興味・関心を高めた上で、その背後にある観光公害や環境問題、現地住民の生活への影響といった「負の側面」にも目を向けさせる。そうすることで、物事には様々な視点があり、一面的な見方では見落としてしまう課題があることに気付かせたい。 また、英語のメール文を通じて情報を読み取り、自分の意見を発信する活動を通じて、多面的・多角的に物事を捉え、自分の考えを英語で表現する力の育成を目指す。このような学びを通して、生徒たちがこれからのグローバル社会で求められる批判的思考力や異文化理解の素地を養うことを、この単元の大きな意義とする。					
【生徒観】 英語学習に前向きに取り組むことのできるクラスである。普段からメリハリをつけて授業に取り組むことができおり、英語に苦手意識を持つ生徒が多いものの、互いに教え合ったり、共に考えたりする姿がよく見られる。年度当初で行った英語に対する意識調査では、「英語が好きですか?」という質問に対し、約24%(3組のアンケート確認)の生徒が肯定的な回答をしたが、英語に対する抵抗感を抱いている生徒が多い。また、「英語を学ぶことは必要だと思いますか?」という質問に対しては、約82%(3組のアンケート確認)の生徒が必要だと答えており、英語の重要性を感じている生徒が多いことが分かる。 今回の単元では、「ウユニ塩湖」に焦点を当てるが、生徒たちが視野を広げ、多様な視点から物事を捉える機会となることを願っている。					

【教材観】

本教材は、南米ボリビアにある「ウユニ塩湖」という自然の驚異を題材にしており、生徒たちに地球の多様な自然や文化への関心を引き出すことを目的としている。特に、雨季にのみ見られる「天空の鏡」としての絶景は、写真や文章を通じて生徒の好奇心を刺激し、身近ではない世界に目を向けるきっかけを与えてくれる。

また、単に「美しい場所」として紹介するだけでなく、観光地化が進むことによる環境問題や地域社会への影響といった課題にも触れ、自然や観光を一面的に捉えるのではなく、多角的に考える視点を養う構成としたい。

英語を学ぶことを通して、情報を読み取り、背景にある社会的・文化的な要素に目を向ける力を育成できる教材であり、言語活動と探究的な学びを結びつける点においても高い教育的価値を持っている。

【指導観】

本授業では、ウユニ塩湖を題材とした教材に加え、JICA 事務局の協力のもと、JICA 協力隊員によるオンライン出前講座を取り入れることで、生徒たちが教室を越えたリアルな学びを体験できるようにする。実際に現地と繋がり、インタビュー活動等を通じて直接話を聞くことにより、教科書の内容を「知識」として受け取るだけでなく、それを自分の問いに変え、主体的に深める学びへと発展させていく。

また、群馬県では、エージェンシーを発揮する「自律した学習者」を育成するために、各授業において、〔自己決定〕、〔対話・交流〕、〔試行錯誤〕の場面を取り入れ、問題解決的な学びを展開することを目標としている。本単元においても、問いかけや発問の仕方を工夫することで、生徒たちが当事者意識を持ち主体的に学習に取り組めるように工夫したい。また、教師やクラスメイトとの対話を通して理解を深め、試行錯誤しながら自分の思いを形にする場面を設定し、生徒自身が自己成長を感じられるような時間にしていきたい。



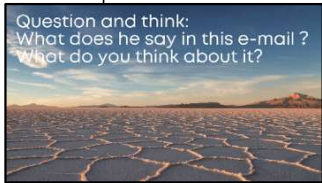

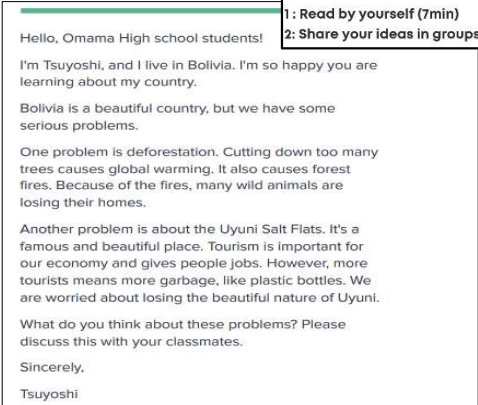
指導においては、生徒がウユニ塩湖の魅力とその課題をバランス良く捉えられるよう導くことを大切にする。自然の美しさに心を動かされる一方で、環境や地域社会への影響にも目を向けさせ、物事を多面的に考察する力を育てることが狙いである。教師は、生徒一人ひとりの関心や理解の深まりに寄り添いながら、必要に応じて語彙や表現の支援を行い、思考を深める問いかけを通して学びを広げる支援者としての役割を果たしたい。




このように、本授業は「言語を使って学ぶ」「世界と繋がる」「多様な視点で考える」という複数の要素を融合させた、生徒の学びに深い意味をもたらす実践的な英語教育を目指すものである。


7. 単元計画(全10時間)			
時間	ねらい	学習活動	資料など
1 ～ 4	英語で書かれたメール文を読むことを通し、自然界の奇跡として知られる「ボリビアのウユニ塩湖」について知る。	<ul style="list-style-type: none"> • New Words の習得 • 問いかけの共有 (K-W-L チャート) : → K (知っていること): ウユニ塩湖について知っていることを出し合う W (知りたいこと): ウユニ塩湖について知りたいことを出し合う • メール文の読み取り方を学ぶ • ウユニ塩湖の写真やメール文からウユニ塩湖の特徴や魅力を見つける • 音読活動でインプット 	資料など
5 ～ 7	ボリビアに現在派遣されている JICA 海外協力隊の川邊剛さんとの交流を通し、現地の声を聴き視野を広げる中で、ボリビアの自然環境について考える。 *オンライン出前講座: 11月12日(水)9:00～9:50 (1学年全体で実施)	<ul style="list-style-type: none"> • JICA ボリビア事務局の方への質問をグループで考える • オンラインでの交流(事前にくつか質問を送付し、回答していただく) • 「ボリビア」を巡る問題点について、クラスメイトと意見交換をする 	
8 本時 12月8日 (月)5限	ボリビアやウユニ塩湖に関する現状や問題点を知り、課題解決に向けた方法を英語で提案する。	<ul style="list-style-type: none"> • メール文を読み、ボリビアやウユニ塩湖が抱える問題点について読み取る • グループに分かれ、英語で自分たちの意見をまとめ共有する〔書くこと〕 	オリジナルのメール文

9	前時で課題解決の提案をもとに、異なる立場における利害の対立やジレンマについてディスカッションを行う。 (一部英語で、その他は日本語で実施)	・各グループから出た提案について、与えられた立場から考察をする。	
10 ～ 11	ウユニ塩湖について学んできたことを、メール文にしてまとめる。 (メールを送る対象→JICA 海外協力隊の剛さん、JICA ボリビア事務局の方)	・メール文の書き方を学ぶ ・これまでの学びを踏まえて自身の考えを英語でまとめる ・自分が印象に残った話・感謝・提案などを整理してから英語で書く ・ピアレビュー(互いに読み合っってフィードバック) ・メール文を実際に入力してみる	

8. 本時の展開(概略)
 本時のねらい:
 英語で書かれたメール文を読み取り、ウユニ塩湖に関する現状や問題点を知り、課題解決に向けた方法を英語で提案する。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	○前時の確認 T: Last month, we talked with him. Do you remember his name? S: Tsuyoshi-san! T: Yes, he lives in Bolivia now and we learned lots of things about Bolivia! So today's mission is here. Let's read the e-mail from Tsuyoshi-san in English! T: Today's goal is ... Question and think: What does he say in this e-mail? What do you think about it? →つよしさんのことを全体で思い出したのち、本日の活動概要について全体に共有する。		  
展開 (40分)	○グループ(4or3人1組)をつくる T: OK, so let's make a group of four(three). STEP1: ○JICA 海外協力隊の方からいただいたメール文(英語)を生徒たちに配布し、グループで内容を読み取る。 (個人で読み取り(7分)→グループで確認) ☆メール文の要点 <Problem1: ボリビア全体について> ・森林破壊が深刻化しており、地球温暖化の原因となっている。野生生物の生息地が失われつつある。 <Problem2: ウユニ塩湖について> ・ウユニ塩湖は大切な観光資源であり、雇用も生み出しているが、観光客の増加による環境問題が深刻。(ごみ問題)	・欠席状況に合わせて、グループの人数を調整する。	メール文 ワークシート  <p>～メール文～</p> 

<p>○メール文で読み取れた2つの Problems について全体で確認する。</p> <p>T: Have you finished reading the e-mail? Next, let's check the story. There are some problems he mentioned in his e-mail. What kinds of problems?</p> <p>予想される生徒の回答 S1:「森林破壊で動物の住かなくなっていること。」 S2:「観光客によるごみ問題。」</p> <p>STEP2: メール文を踏まえて、<u>ボリビアの現状と困りごとに対する解決策/アイデア</u>をグループで話し合い、提案する。</p> <p>T: Next, let's think about the following thing! Talk with your group members about how to solve this problem.</p> <p>(ここからは日本語で説明) では今から、このメール文で読み取ったボリビアの現状と困りごとの解決法やアイデアについて、話し合ってもらいます。グループごとに、次の立場にいる人々へ向けて、意見を考えていきましょう！現状を伝え提案する際は、 <We learned ~ / We knew that ~ / You should ~ / How about ~ ? > というフレーズを使ってみましょう。</p> <p>Group1→Local tour guide (現地の観光ガイド) Group2→Environmental protection organization (環境保護団体) Group3→Japan Overseas Cooperation Volunteers (JICA 海外協力隊) Group4→Tourist from abroad (海外からの観光客) Group5→People living in Bolivia (ボリビアに住む人々) ※ウユニ塩湖の近くを想定</p> <p>皆さんは、この立場にある人々と直接あったことはありませんが、彼らへのメッセージ/提案を作成してみましょう！</p> <p>T: In this part, let's make English sentences (About 3 sentences) You can use the dictionary, so please write in simple English.</p> <p>~Group Work~</p> <p>予想されるグループの解決に対するアイデア</p>	<div data-bbox="1002 237 1417 465"> <p>2つのproblems </p> <p>1つ目: deforestation (森林伐採) ▶ global warming (地球温暖化)</p> <p>• Because of fires, many wild animals are losing their homes (火災が原因で、多くの野生動物がすみかを失っている)</p> </div> <div data-bbox="1002 483 1417 712"> <p>2つのproblems </p> <p>2つ目: About the Uyuni Salt Flats More tourists = More garbage (多くの観光客) (多くのごみ)</p> </div> <p>・「提案の構成」「使える表現」など、英語のアウトプットを支援する。</p> <p><提案する内容> 現状+問題の解決策やアイデア</p> <p><使える表現></p> <div data-bbox="1015 945 1439 1182"> <p>Group Work !</p> <p>メール文を踏まえて、</p> <p>STEP2: ボリビアの現状+困りごとに対する解決策やアイデアをグループで話し合い、英語で提案する。【3文以上】</p> <p><現状や提案で使える表現></p> <ul style="list-style-type: none"> • We learned~ • We knew~ • You should~ • How about~?  </div> <div data-bbox="1015 1205 1439 1438"> <p>困りごとの解決策やアイデアを伝える対象</p> <ul style="list-style-type: none"> • Group1→ Local tour guide (現地の観光ガイド) • Group2→ Environmental protection organization (環境保護団体) • Group3→ Japan Overseas Cooperation Volunteers (JICA海外協力隊) • Group4→ Tourist from abroad (海外からの観光客) • Group5→ People living in Bolivia (ボリビアに住む人々) </div> <p>・各グループの様子を伺い、必要に応じてヒントを与える。(ヒントは多く与えすぎないようにする)</p>	<p>19 — 根岸 彩夏</p> <p>群馬県立大間々高等学校・1年・英語コミュニケーション1</p>
--	---	--

	<p><u>S1<観光ガイドの立場></u> We learned that there are many problems in the Salar de Uyuni. We think that you should ask tourists to throw away garbage properly. Holding a seminar is a good idea.</p> <p><u>S2<環境保護団体の立場></u> We knew that Bolivia has various problems such as environment. We were very sad. You should build a recycling system in Uyuni to protect the environment.</p> <p><u>S3<JICA 海外協力隊の立場></u> We knew many things from this e-mail. We were surprised at the problem of deforestation. We have heard similar problems occur in other countries. How about teaching the importance of environment to children in Bolivia?</p> <p><u>S4<海外からの観光客の立場></u> We learned many problems after reading the e-mail from Tsuyoshi-san. We thought that environment is very important, so we have to do something to protect nature. You should bring your own bottle and try to reduce trash.</p> <p><u>S5<ボリビアに住む人々の視点></u> We are very shocked because Uyuni is very beautiful, but there is so much garbage there. We want to preserve this precious heritage, so there is a good idea. How about consulting a government agency and cooperate?</p>		
<p>まとめ (5分)</p>	<p>・グループで本日の感想や学びを共有→数名指名し全体で共有 T: We have only 5 minutes, so let's share your feeling or today's learning. Talk with your group members! ~Group talking~ How about ○○?</p> <p>S1:とても難しかったけど、ウユニ塩湖の環境問題について知ることができた。 S2:実際にボリビアに行ってみたくなった! S3:解決策を英語で提案するのがとても難しかった。次はもっといろいろな表現を使ってスムーズに提案したい!</p>	<p>グループでの取組み状況で、振り返りの時間を調整する(3~5分)</p>	<div data-bbox="1034 1413 1430 1637" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グループ共有 What did you learn today?</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学び ・感じたこと ・考えたこと </div>

<p>9. 評価規準に基づく本時の評価(評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれたメール文を読み取り、「ウユニ塩湖」の現状について理解することができる。(ワークシート) ・メール文をもとに自分たちの意見やアイデアを英語でまとめ、表現することができる。(グループでの活動、Canvaでの共有)
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA ボリビア事務局 …オンライン出前講座の調整・連絡をしていただき、授業の進め方等についてもご助言をいただいた。 ・JICA 海外協力隊(オンライン出前講座の実施) …ウユニ塩湖やボリビアの特徴について教えていただき、ボリビアの環境問題を中心にお話していただいた。

11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み

- ・JICA 出前講座を毎年各学年で実施(2025年度は、3学年生徒を対象に、ベトナムの方にお話を伺う予定)
- ・インドやタイの生徒さん、先生方と交流予定(2026年2月～3月)

【自己評価】

12. 苦勞した点

生徒たちの英語力の差が顕著であり、単元テーマ(ウユニ塩湖の環境問題)で伝えたいことに対応しつつ、全生徒にとって適切な難易度の英文(JICA 海外協力隊からのメール文)を用意することに苦勞した。

本時で用意したメール文は、生徒たちにとって語彙や構文の難易度がやや高かったと考える。そのため、内容理解に時間を要し、メイン活動である解決策の提案に十分な時間を割けなかったグループが見られた。授業の中心として置いていた「環境問題の解決策を英語で提案する」活動において、生徒たちが自力で英文を構築するのではなく、外部ツール(Google 翻訳など)に頼ってしまう傾向が見られた。日頃の授業から、生徒が使える語彙やフレーズを体系的に増やしていく必要性を感じた。

13. 改善点

本時の「環境問題の解決策を提案する」活動について、提案を伝える「対象」の絞り込み方が、生徒の思考の深さに影響を与えると感じた。

●方法1:提案対象をあえて絞らず、生徒自身に最も効果的だと考える対象を決めさせることで、主体的な判断力を促す。

●方法2:対象をあらかじめ絞ることで、特定の立場からの視点に基づいた、具体的な提案を深く考えさせる。

生徒たちの習熟度や単元の目標に合わせて、上記の方法を使い分け、提案活動の質を上げていきたい。

また、生徒のテーマに対する関心をさらに引き出し、深い学びに繋げるための授業づくりが必要である。教師が用意した問いに答えるだけでなく、学習活動の中から「自発的に生まれる疑問や気づき」を積極的に拾い上げ、そこから議論を深掘りする時間を設けていきたいと感じた。

14. 成果が出た点

この単元では、遠く離れたボリビアのウユニ塩湖を題材しており、「少しでもボリビアを身近な国にしたい」と考え、単元の途中に JICA 海外協力隊(ボリビア在住)の川邊さまにお話をいただいた。川邊さまと生徒たちが直接オンラインでやり取りをすることで生まれた繋がりが、本時の授業にも活かされ、生徒たちはウユニ塩湖の環境問題を単なる知識としてではなく「ジブンゴト化」して捉え、積極的に解決策の提案活動に取り組むことができた。

また、授業設計において最も意識した「汎用性」を達成することができた。本指導案は、特定のクラスや教師に限定されることなく、他の英語科教員とも協力して実践・展開できる構成となった。

本指導案は、既に同僚の先生方にも実践いただき、フィードバックを得る段階にある。今後は、この共同実践を通じて指導案をさらにブラッシュアップし、本校の年間指導計画の中に位置付けられる探究的なテーマ単元として確立していく。

15. 学びの軌跡(児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど)

—生徒の振り返り記述より(抜粋)—

- ・問題を提案するのは簡単だけど、解決するために必要なのは、人々の意思にあるから、解決させることは難しいと思った。
- ・英文を作ることに集中していて提案する相手について考えられていなかった。ボリビアでも大変なんだなって知れたのに、ちゃんと向き合えなくて悔しかった。
- ・ボリビアのウユニ塩湖について勉強していたけど、きれいな所しか学べていないんだなと思いました。川邊さんの話を聴いて、授業では勉強しなかった内容を知れたので良かったです。
- ・ウユニ塩湖は、きれいなところだけど、その反面、問題が多く困っている人が沢山いることが分かりました。ゴミ問題など、自分たちが意識をして生活すれば変わっていくと思うので、意識して生活していく人が増えたらいいなと思いました。
- ・“光があるものには影がある”という言葉に納得しました。難しい文を調べて、グループでなるべく分担して、解決策を英文で書くことができるとも勉強になりました。
- ・いいところにも何かしらの問題が起きていることを知れた。

16. 授業者による自由記述

本研究授業の準備においては、「JICA 開発教育指導者研修」を通じて自身の授業スタイルを深く内省し、生徒の思考力や判断力、および主体性を最大限に引き出す授業について様々な角度から考え抜くことができた。目の前の生徒たちの実態と、探究的な学習目標を両立させた授業を構築することは非常に難しかったが、大津先生との綿密な対話を経て、指導案を完成させることができた。この経験で得られた学びは、今後の教育実践に確実に繋げていきたい。

教育者として、英語の教材を通して、社会や世界が抱える複雑な問題について深く考える機会を生徒たちに提

供したいと考えている。単に語学力を高めることにとどまらず、「知らないことを知ることの楽しさ」や、「世界と繋がる喜び」を体感させたい。そのためにも、これからも授業者自身が学び続ける姿を生徒に見せ、生徒との活発なインタラクションの中で「生きた授業」を作り上げていく。

【参考資料】

- ・ JICA (国際協力機構) ボリビア事務所ホームページ
- ・ 大島正裕『ボリビアを知るための65章【第3版】』 赤石書店, 2025年